

第5回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ 結果報告

○下水道場とは

- 下水道関係組織においても行政改革に伴う職員採用の抑制や経験豊富な職員の退職等により、技術やノウハウの継承が問題となっている。
- 一方で、事業量の減少や民間への業務委託の増加により、若手職員は自らの組織の業務だけでは十分な知識、情報を得ることが難しい状況となっている。
- このような状況に鑑み、平成24年9月、国土交通省によって、下水道事業の持続的・安定的な運営や一層の発展のため、若手職員同士が交流し、お互いの悩みや検討課題を相互に相談する場として「下水道場」が設立された。
- 本県では、平成28年9月に「やるばい長崎下水道場」を設立し、市町若手職員同士のネットワーク形成・スキルアップを図るとともに県内の下水道事業のさらなる発展を目指して取り組んでいる。

第5回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ を以下のとおり開催しました。

- 日時：令和3年6月18日（金） 13：30～17：00
- 場所：大村湾南部浄化センター
- 対象：長崎県内下水道若手（概ね40歳以下）職員
- 参加：長崎県内10市町 24名
- 名称：やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～

○会次第

1. 講義

- | | | |
|--------------------------------|--------------|--------|
| 1) 下水道管路施設災害復旧マニュアルの内容について | 日本下水道管路管理業協会 | 井坂常務理事 |
| 2) 下水道管路管理安全衛生管理マニュアルの内容について | 日本下水道管路管理業協会 | 米川技術部長 |
| 3) 下水道管路管理積算における機械器具損料の改定等について | 日本下水道管路管理業協会 | 井坂常務理事 |
| 4) 連絡事項 | 水環境対策課 | 池田技師 |

2. 現地研修

- 1) 汚水管渠の清掃等の模擬演習
- 2) 浄化センター内の見学

1. 講義

1) 下水道管路施設災害復旧支援マニュアルの内容について

日本下水道管路管理業協会

井坂常務理事から、災害発生時の下水道施設に関する支援実績や支援内容について講義をしていただきました。日本下水道管路管理業協会では災害発生時に下水道サービスの低下を最小限に抑え、災害復旧支援を円滑かつ効率的に進めるためのマニュアルを作成しています。若手自治体職員は災害発生後の復旧業務を行った経験が少ないため、有事の際に何をすべきかを把握できていない職員もいる状況でしたが、マニュアルの説明を受けることで初動対応から復旧までの流れを学ぶことができ、とても参考になりました。



2) 下水道管路管理安全衛生管理マニュアルの内容について

日本下水道管路管理業協会

米川技術部長から、下水道管路施設の管理における労働災害、公衆災害、事故について講義をしていただきました。自治体職員は発注者という立場もあり、日頃の業務ではなかなか学ぶことのない現場実践での技術的な知識や注意事項を学ぶことができ、受注業者への助言等につながるため、とても勉強になりました。



3) 下水道管路管理積算における機械器具損料の改定等について

日本下水道管路管理業協会

井坂常務理事から、工事発注を行う上で必要な見積書の作成方法について講義をしていただきました。ある市で急激な豪雨により床上浸水が発生し、ポンプ場の機能が停止したとの想定で見積書の作成に必要な計算を実際に行いました。実際に計算してみることで受注業者が作成した見積書が正しいものかを確認することができるので、とても良い機会となりました。



4) 連絡事項

交付金関係スケジュールを示して、不用額や繰越縮減を市町へお願いするとともに、調査物の期限内の提出、事故報告・浸水被害情報の速やかな報告をお願いしました。

また、県内の下水道関係災害協定締結状況の資料を提供し、災害協定締結を促し、国から通知があった出水対策について、適切な実施や管理を依頼しました。

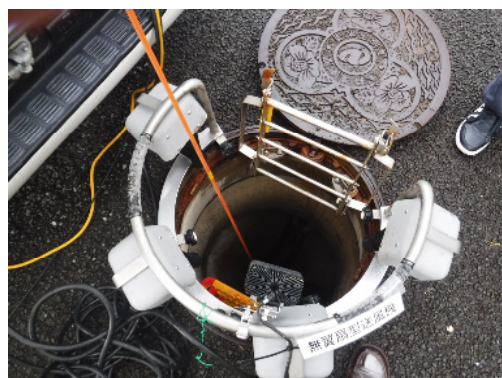
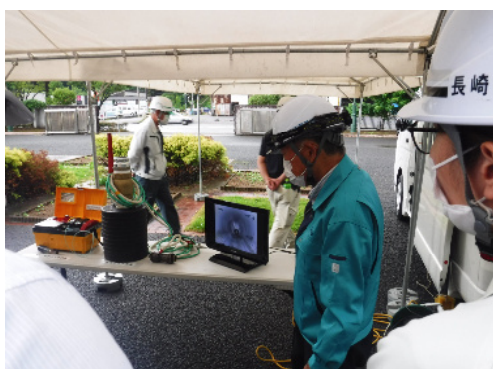
水環境対策課



2. 現地研修

1) 汚水管渠の清掃等の模擬演習

下水道管路施設業協会長崎県部会の方々に高圧洗浄車による汚水管渠の清掃や TVカメラ車による管渠の点検の模擬演習を行っていただきました。実際に自分で操作を試みることで委託業者の作業員がどのようなことをしているかを深く理解することができました。



2) 浄化センター内の見学

大村湾南部浄化センターの早田所長に浄化センター内のポンプ施設や自家発電設備について説明をしていただきました。浄化センター内部にはなかなか立ち入ることができないため初めて内部を見学したという職員も多く、良い機会となりました。



最後に....

第5回下水道場では、コロナ禍での開催ということもあり、感染対策を徹底しての開催となったことからグループワークや意見交換会は実施せず、職員の技術力向上に重きを置いて実施しました。「組織の業務では学ぶことができないことを学び、体験できるいい機会だった」という意見がある一方、「他自治体との意見を共有したい」という意見が多くありました。

次回下水道場では、民間事業者の最新技術講習会と共同開催することでさらに充実した下水道場を開催できればと考えています。

若手の力で長崎県の下水道を盛り上げるために、今後も下水道場を継続していきます。

